

平成27年度病虫害発生予察予報第10号（1月）

平成28年1月6日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
抑制、促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多(西)</u> 、平年並(中央、中西) <u>多(西)</u> 、平年並(中央)、少(中西) 平年並(中央)、やや少(中西、西) <u>多(中央)</u> 、少(中西、西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ホコリダニ類	平年並(東、中央)、少(西) <u>多(県下全域)</u> <u>やや多(東、西)</u> 、やや少(中央) 平年並(東、中央)、少(西) 少(県下全域) <u>多(東)</u> 、少(中央、西)
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ	<u>やや多(県下全域)</u> <u>多(東、中)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> <u>やや多(中)</u> 、平年並(西)、やや少(東) <u>やや多(東、中西)</u> 、平年並(中) やや少(中)、少(東、中西) 平年並(県下全域)
促成トマト	すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 少(中央) 少(中央)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台12月31日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞1月2日から2月1日

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は高い確率60％です。降水量は平年並または多い確率40％です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40％です。

週別の気温は、1週目は高い確率80％です。2週目は平年並または高い確率ともに40％です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40％です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	20	40	40	
		日照時間	40		40	20

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	10	80	
2週目		20	40	40	
3～4週目		20	40	40	

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：1月2日（土）～2月1日（日）

1週目：1月2日（土）～1月8日（金）

2週目：1月9日（土）～1月15日（金）

3～4週目：1月16日（土）～1月29日（金）

II 病虫害発生予想

1 抑制、促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：やや多（西部）、平年並（中央部、中西部）

根 拠

(1)巡回調査では県中央部、中西部では目立った発生は見られなかった。県西部では発生面積は平年並であったが、発病程度はやや高めであった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、既発は場を中心に発病が増加すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多（西部）、平年並（中央部）、少（中西部）

根 拠

(1)巡回調査では県西部で発病面積で多発生であり発病程度も高かった。県中央部では発病程度が高かったが、発生面積は平年並、中西部は少発生であった。

(2)気温の低下とともに病勢の進展は緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられ

る。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量：平年並（中央部）、やや少（中西部、西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県中央部、西部で発生が見られた。いずれの地域も先月に比べ発病面積が増加傾向にあるが、平年に比べ発病程度の高いほ場は見られていない。
- (2)気温の低下にともない、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖速度が低下するため、病勢の進展は緩慢になると考えられる。

対 策

- (1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する（低温期は生長点付近に多く見られる）。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多（中央部）、少（中西部、西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県中央部で発生面積が多く、発生程度もやや高めであったが、県中西部、西部では確認されなかった。
- (2)気温の低下にともない増殖は緩慢になるため、現在の傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する（低温期は生長点付近に寄生している）。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵など、化学農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（東部、中央部）、少（西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部、中央部では平年並、西部では少なめであり、発病程度の高いほ場は見られなかった。
- (2)気温の低下とともに、病勢の進展は緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1)巡回調査では県中央部で発生面積が多く、発病程度も高かった。県東部、西部で

も発生面積はやや多めであり、発病程度も高めであった。

- (2) 向こう 1 か月の気象予報では降水量が多め、気温も高めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) すすかび病

予 想 発生量：やや多（東部、西部）やや少（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生面積が多い地域は見られなかったが、県東部では発病程度がやや高めであった。
(2) 向こう 1 か月の気象予報では降水量が多め、気温も高めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並（東部、中央部）、少（西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積が多い地域は見られなかったが、県中央部では発生程度が高めであった。
(2) 気温の低下とともに、増殖が緩慢となるため現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積が多い地域は見られなかったが、県中央部、西部では発生密度が高かった。
(2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) ホコリダニ類

予 想 発生量：多（東部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県東部でのみ発生が見られ、発生程度も高かった。
(2) 既発ほ場では発生を完全に抑えることは困難であるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。

- (2) 薬剤防除を行う場合、生長点付近を中心にとっぷりと薬剤散布を行う。また、発生株だけでなく、周辺の株も防除を行う。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多（県下全域）

根 拠

- (1) 巡回調査では全般的に発生面積は平年並であったが、県中央部では発病程度が高かった。
- (2) 向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されている。キュウリ、ナスに比べ栽培適温が高いピーマン類では、気温の低下による病勢進展への影響は少ないため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多（東部、中央部）、やや多（中西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県東部、中央部で発生面積が多く、発病程度も高かった。県中西部では発生面積は平年並であり、発病程度も低かった。
- (2) 向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、病勢が進展すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：やや多（中央部）、平年並（中西部）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県中央部で発生面積、発病程度とも平年並であったが、県東部、中西部は目立った発生は見られなかった。
- (2) 向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（東部、中西部）、平年並（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で見られた。発生面積は県東部、中西部でやや多め、中央部で平年並であった。発生程度は県東部、中央部とも低かったが、中西部では高かった。

(2) 気温の低下とともに、増殖が緩慢となるため現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で見られたが、いずれの地域も目立った発生は見られなかった。

(2) 気温の低下にともない、増殖が緩慢になるため現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) ヒラズハナアザミウマ

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で見られた。発生面積はいずれの地域も平年並であり発生程度が高いほ場も見られなかった。

(2) 気温の低下にともない、増殖が緩慢になるため現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4 促成トマトの病害虫

1) すすかび病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

(1) 巡回調査では平年に比べ多めの発生であった。下葉中心の発生であったが、発病程度も高かった。

(2) 向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 巡回調査では発生が見られなかった。

(2) 本病の媒介虫であるタバココナジラミは巡回調査では見られていないため少発生が続くと考えられる。

対 策

(1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち

出し、埋設するなどして処分する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

(1)巡回調査では発生が見られなかった。

対 策

(1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

こうち農業ネットサービス※

・携帯電話を使った病害虫関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info> (Iモード)

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報 (ezweb)

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)

①病害虫発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります